

学校だより

横浜市情報ネットワーク（ＹＹネット）上に本校のホームページがあります。
URL : <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

横浜市立十日市場小学校
令和6年1月31日（水）
緑区十日市場町1392番地-1
電話：981-0420
FAX：983-1694

個性と個性で強くなる

副校長 石塚 敦 郎

寒い日が続いていますが、みなさまお体の調子はいかがでしょう。遅くなりましたが、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。「今年度」も残すところ2か月。子どもたちもこの1年を通してたくましくなりました。様々な価値観が、個性が、互いに切磋琢磨し合う日々の集団生活を通して、子どもたちは大きく成長していきます。

ところで、「今年度」法隆寺は『世界遺産登録30周年』を迎えたそうです。目標額の7倍を集めたクラウドファンディングで先日大きな話題ともなりましたが、このように多くの人たちから支えられ愛されています。その聖徳太子が建立した法隆寺は、世界最古の木造建築物として有名です。その木造建築が千数百年にわたって風雨に耐え、現在までその威容を保っているのは奇跡的です。修理をするとは言え、木は腐るので長持ちはしないものと私などは思ってしまっているのですが、この考えなど過去の職人さんたちの見識に及ぶところではありません。そして、更に驚かされるのが、柱に使われている木材は曲がったものばかりだということです。山の傾斜や日当たり、その土地の気候等によってそれぞれ成長してきた木々は、一本ずつ特徴が違っているのはもちろんです。植林をし、まっすぐな木を育て、それを資材として使っている現代とは違っています。規格化された材料を用い、ち密な構造計算を基に地震など自然災害にも耐えられるよう設計された現在の建築物とは、その点においても大きく違います。

法隆寺の昭和大修理だけでなく、薬師寺の金堂・西塔再建を担当した宮大工の西岡常一さんという方が、「木組みは寸法で組まず、木の癖で組め」、一本一本の木の特徴をつかみ、それを組み合わせて造ることが大切、という話を残されています。個々の木の個性を上手に組み合わせることが、丈夫で長持ちする建物を造ることになるというのです。さらにこれは人の集まりでも言えることで、「人組みは人の癖組み」が重要だそうです。日本社会では同調圧力がかかりやすいとも言われますが、学校というたくさんの個性が集まる場所で、これら個性がぶつかりながらも輝き合う集団になっていけるとどれだけ素晴らしいことなのでしょう。本校の学校教育目標にある「共生」に相通じる部分が大いなのではないかと思ひます。子どもたちの個性がうまく組み合わせられ、そこには教職員の個性も組み合わせられて、法隆寺の木組みのように多くの個性が絶妙なバランスを保って行けたらと思ひます。私たち教師は”学校の宮大工”として、子どもたちの個性が大いに発揮されるよう努めてまいります。

本校は「再来年度」『学校創立60周年』を迎えます。そして、世界遺産登録30周年を迎えた法隆寺のように、末永く支えられ、愛され続ける学校を目指してまいります。